

特別解説

のれんの計上の状況等の分析(2024年度) ～ IFRS 任意適用日本企業と日本の会計基準を適用する 主要な企業の場合

はじめに

我が国でIFRSの任意適用が開始されてから早くも15年以上が経過し、IFRSを任意適用して連結財務諸表と有価証券報告書を作成・公表する日本企業（以下「IFRS任意適用日本企業」という。）の数も、株式時価総額が高い優良企業を中心に着実に増加している。本稿では、主要な日本企業ののれんの計上額や連結純資産に対するのれん計上額の比率、のれんの減損処理額等を調査して、全体的な傾向等の分析を試みた。具体的には、IFRS任意適用日本企業、数は少ないが米国会計基準を適用する日本企業、及び日本の会計基準を適用する主要な日本企業（株式時価総額が高い企業）を対象として調査分析を行うこととした。

なお、本稿の最後では、比較のための参考として、主要な米国企業及び主要な欧州の企業について実施した同様の調査のデータも合わせて掲載している。

調査分析の対象とした企業

今回調査分析の対象としたのは、2024年度にIFRSを適用して有価証券報告書を作成・提出した主要な日本企業（主要なIFRS任意適用日本企業）の100社であり、のれんの計上額や連結純資産の金額等は、いずれも最も直近の本決算での数値を用いている。また、IFRS任意

適用日本企業の中には、米国会計基準からIFRSに移行した企業や、IFRSを適用して新規に上場した企業も含まれている。

また、本稿の後段では、米国会計基準を適用して連結財務諸表を作成している日本企業6社と、2025年3月末日時点で東京証券取引所での株式時価総額上位300社にランクインしている日本企業のうち、IFRS任意適用日本企業と米国会計基準を適用する日本企業を除いた計100社（日本の会計基準を適用する主要な日本企業）を対象として、欧米企業との比較も交えつつ、のれんの計上額等に関する調査分析を行っている。

主要なIFRS任意適用日本企業が計上したのれんの調査分析

2024年度において、のれんの計上額が大きかったIFRS任意適用日本企業を列挙すると、表1のとおりであった。なお、参考として、各社ののれんの計上額の連結純資産に対する比率も併記している。

ソフトバンクグループと武田薬品工業が計上するのれんの金額が頭一つ抜けており、この両社が1位と2位を占める状況がここ数年ずっと続いている。

次に主要なIFRS任意適用日本企業ののれんの計上額の分布を示すと、表2のとおりであった。今回調査の対象とした全100社のうち、24社ののれん計上額が100億円未満であった（の